

記載例

様式第 1

提出先に応じて記載

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

徳島県知事
(南部・西部) 総合県民局長

殿

不要なものを削除する

年 月 日

届出者 ○○市○○町○○丁目○○番地
株式会社 ○○
代表取締役 ○○ ○○

個人の場合は個人名を記入
法人の場合は法人名並びに代表者
の氏名を記入
代表者でない場合は委任状が必要

大気汚染防止法第 6 条第 1 項(第 7 条第 1 項、第 8 条第 1 項)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

不要なものを削除する

工場又は事業場の名称	株式会社○○	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	○○市○○町○○丁目○○番地	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	第 1 項 ボイラー No. 1	施行令別表第 1 に掲げる項番号及び名称、施設番号	
ばい煙発生施設の構造	別紙 1 のとおり。	※審査結果	
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙 2 のとおり。	※備考	
ばい煙の処理の方法	別紙 3 のとおり。		

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第 1 に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4 とすること。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号		No. 1	→施設ごとに適宜一連番号を与えて記入する。
名称及び型式		ロンドン製HK-6020 炉筒煙管ボイラー	→製造会社名、型式、ボイラー種類を記入する
設置年月日		年 月 日	→使用及び変更届の場合に記入する。
着手予定年月日		R 3年10月 8日	ばい煙発生施設に係る関係工事（基礎→工事を含む。）に着手する予定年月日を記入する。
使用開始予定年月日		R 3年10月31日	→ばい煙発生施設の本運転を行う日を記入する。
規	伝熱面積(m ²)	25	→液体、ガス、微粉炭燃料を使用する場合に記入する
	燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)	226	
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量(kVA)		
	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)		
	焼却能力(kg/h)		
模	乾燥施設の容量(m ³)		※規模の欄については、その施設の定格能力で記入する。
	電流量(kA)		
	ポンプの動力(kW)		
	合成・漂白・濃縮能力(kg/h)		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

※変更届出の場合は、変更前・後がよくわかるように変更後の区別を明記し、それぞれを記入すること。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		No. 1		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	9時～17時 8時間/回1回/日30日/月		
	季節変動	なし		
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類			
	使用割合			
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 窒素分	
	1日の使用量			
燃料又は電力	種類	A重油(〇〇石油)		
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.01	いおう分 0.84	窒素分 0.019
	発熱量	(高) 10,850kcal/kg		
	通常の使用量	1800/h		
	混焼割合	専焼		
排出ガス量 (m ³ /h)	湿り	最大 2,629	通常 2,094	
	乾き	最大 2,367	通常 1,886	
排出ガス温度(℃)		250		
排出ガス中の酸素濃度(%)		4.0		
ばい煙の濃度	ばいじん(g/m ³)	最大 0.10 (0.10)	通常 0.08 (0.08)	
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大 724	通常 724	
	カドミウム及びその化合物 (mg/m ³)	最大	通常	
	塩素素(mg/m ³)	最大	通常	
	塩化水素(mg/m ³)	最大	通常	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m ³)	最大	通常	
	鉛及びその化合物 (mg/m ³)	最大	通常	
	窒素酸化物 (容量比ppm)	最大 170 (170)	通常 150 (150)	
ばい煙量	いおう酸化物 (m ³ /h)	最大 1.15	通常 0.92	
参考事項				

→「ばい煙発生施設の構造」の部分に記入した施設番号を記入する。
→当該施設を最も多く使用する期間における平均使用状況を記入する。

→使用しない月を記入する。
(例 4月～6月休止)

燃料だけでなく、原料を使用する場合に記入する。(例 廃棄物焼却炉の焼却物) 焼却炉の場合、原料についてはすべての種類について使用割合とともに明記し、いおう分についてはすべてのものを燃やした場合の平均とする。なお、別紙にいおう分についての計算方法を添付する。

→使用燃料の種類を具体的に記入する。

→重量比、容量比の別を明確に記入する。

→高発熱量又は低発熱量の区別を明確に記入する。

→最も多く使用する月の平均使用量(時間当たり)で記入する。

→混焼の場合それぞれの割合を記入する。

最大は、バーナー・焼却物等を最大使用したときのものであり、通常は一般的に使用する場合のものである。

→煙道出口温度を記入する。

→煙道出口酸素濃度を記入する。

ばい煙の濃度については、煙道出口の濃度を記入する。(処理施設で処理した後のもの)
なお、いおう酸化物に係るもの以外については、同機種、同燃料使用のものであって、他工場・事業場で使用しているものの実測データをもとに記入する。
ばいじん、窒素酸化物については、()書きで酸素換算濃度も記入する。
いおう酸化物については燃原料に含まれるS分から計算により求める。

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとすること。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		No. 1	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		No. 2	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		サイクロン+ステンレス製煙突	
設置年月日		年 月 日	
着手予定年月日		R3年 10月 8日	
使用開始予定年月日		R3年 10月 31日	
処理能力	排出ガス量 (m ³ /h)	最大	2629
		通常	2094
	排出ガス温度 (°C)	処理前	
		処理後	250
	ばいじん (g/m ³)	処理前	0.20
		処理後	0.10
	いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	
		処理後	724
	カドミウム及びその化合物 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	塩素 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	塩化水素 (mg/m ³)	処理前	
		処理後	
	濃度	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m ³)	処理前
処理後			
鉛及びその化合物 (mg/m ³)	処理前		
	処理後		
窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前		
	処理後	170	
ばい煙量 (m ³ /h)	最大	処理前	
		処理後	1.15
	通常	処理前	
		処理後	0.92
捕集効率%	ばいじん		50
	いおう酸化物		
	カドミウム及びその化合物		
	塩素		
	塩化水素		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素		
	鉛及びその化合物		
窒素酸化物			
使用状況	一日の使用時間及び月使用日数等	9時～17時8時間/回1回/日30日/月	
	季節変動	なし	
排出口の実高さ Ho(m)		15	
補正された排出口の高さ He(m)		16.7	
排出速度 (m/s)		1.78	

→処理施設ごとに適宜番号を定める。

「ばい煙発生施設の構造・使用方法」で記入した番号を記入する。
 ばい煙処理施設の種類を記入する。
 →(煙突も処理施設と考える。)

→使用及び変更届の場合に記入する。
 処理施設の着手年月日。設置届の場合
 →は施設着手年月日と同じ日付となる。

→処理施設の本稼働を行う日を記入する

「ばい煙発生施設使用の方法」で記入した湿り排出ガス量を記入する。

処理前は処理施設入口の温度であり、
 処理後は最終出口の温度である。

処理前は処理施設の入口の濃度であり、
 処理後は処理施設を通過した後、
 最終出口の濃度である。
 (濃度は最大値で記入する。)

処理施設がない場合には処理後の濃度のみを記入する。

処理前は処理施設の入口の量であり、
 処理後は処理施設を通過した後、
 最終出口の量である。
 (量は最大値で記入する。)

捕集効率は次式で算出、

$$\frac{\text{入口のばい煙濃度} - \text{出口のばい煙濃度}}{\text{入口のばい煙濃度}} \times 100$$

「ばい煙発生施設使用の方法」と同じものを記入する。

地表よりの高さ。施設がビルの上にある場合ビルの高さも加えたもの。
 →傘付、H型等排ガスの上方向拡散が妨げられた構造のものは、 $H_o = H_e$

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量、それぞれ換算したものとす。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 補正された排出口の高さHeは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。